

事前に提出いただいたご意見・ご質問等に対する回答

議題 2 「第 4 次・健康たかつき 2 1」の取組状況について			
No.	資料番号 ページ番号	ご意見・ご質問等の内容	所管課からの回答
1	資料 1 (5 ページ) No.36	【委員】 事業名：こころの健康相談の充実 相談延べ 3, 8 0 6 人の相談内容について、差し支えない範囲で教えてください。 また、保健所の相談窓口に辿り着いた経路について教えてください。例えば、当事者から直接、家族会、相談支援事業所、支援者など。	【所管課 保健予防課】 令和 7 年度においては、相談内容として、来所等および訪問ともに精神疾患に関する相談が全体の半数を占め、続いて気分の落ち込みやストレス反応等のこころの健康づくりに関する相談、認知症や高齢者のうつ等に関する相談となっています。 相談経路については、相談者ご本人やご両親、関係機関（庁内、庁外）や医療機関が多くなっています。
2	資料 1 (6 ページ) No.41	【委員】 事業名：コミュニティソーシャルワーク事業 重層的支援体制整備事業も CSW の主たる担当領域であると理解しています。 重層的支援体制整備事業の役割及び進捗状況（現状）について教えてください。	【所管課 地域共生推進室】 重層的支援体制整備事業については、相談支援、参加支援、地域づくりに向けた支援を一体的に実施し、地域全体で支え合う包括的な支援体制を整備するための事業です。 C S W（コミュニティソーシャルワーカー）については、本事業の中で、関係機関によるチーム支援の全体調整やアウトリーチ支援などの一部を担っており、市の相談支援関係課に配置する「相談連携推進員」とともに、複雑化・複合化した課題への対応を行う中で、分野や関係機関を越えた連携の促進・強化を図っています。 また、地域づくり支援の一環として、地域住民や N P O、企業等による新たな協働を生み出すための交流会を継続的に開催しており、これまで延べ 1 0 0 を超える団体に参加いただいております。参加者同士による協働事例も多数生まれるなど、分野や立場を越えた地域のつながりづくりを進めているところです。

議題 2 「第 4 次・健康たかつき 2 1」の取組状況について

3	資料 1 (12 ページ) No.96	【委員】 事業名：スクールカウンセラーの派遣 私はこれまで、議会において、いじめや不登校など子どもの課題について、問題が深刻化してから対応するのではなく、早期に把握し、必要な専門職へ適切なタイミングでつなぐことの重要性について質問してきました。また、スクールソーシャルワーカーについては、福祉の専門的な立場から子どもを取り巻く環境に働きかけ、学校と家庭、医療、福祉、行政などをつなぐ役割を担う専門職であるとの答弁もいただいています。実際に、スクールソーシャルワーカーの活動については、年間活動回数が 20 日から 41 日の学校が 6 校から 13 校へ、42 日から 83 日の学校が 3 校から 13 校へ増加し、課題好転率についても 28.1%から 40.1%へ向上したと伺っています。こうした結果からも、子どもが抱える課題に対して、必要な専門職が継続的に関わることの重要性がうかがえます。一方、今回の資料では、スクールカウンセラーについて、通常配置とは別に緊急派遣の実績が示されています。令和 7 年度は、小中学校全校への通常配置に加え、緊急派遣が 193 時間となっています。そこで、まず 2 点お伺いします。 ① 高槻市において、スクールカウンセラーは、どのような課題に対して、どこまでの支援を担う専門職として位置づけられているのでしょうか。 ② 児童生徒に緊急の支援が必要となった場合、スクールカウンセラーとスクールソーシャルワーカーのどちらが関与するのか、あるいは両者が関与するのか、その判断は誰が、どのよう	【所管課 教育指導課】 スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーの役割等については、次のとおりです。 ・スクールカウンセラーについては、心理の専門家として、心理面での課題に対して、児童生徒へのカウンセリングや情報収集・見立て、教員・保護者への助言・援助を行います。 ・スクールソーシャルワーカーについては、福祉の専門家として、児童生徒や保護者のニーズを把握し、状況に応じて目標や支援計画を立てるとともに、関係機関との連携・調整等を行います。 ・児童生徒に緊急の支援を要するケースについては、委員仰せのとおり、必要に応じてスクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカー等の専門家や関係機関との連携のもと、心理や福祉等に関する支援を行います。 ・なお、連携の流れについてですが、学校が課題を把握した際には、まずは校内で情報を共有し、必要に応じて児童生徒・保護者にスクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーの役割について説明したうえで、相談者の同意の下、課題の解決・改善に向けた面談や連携等を行います。
---	---------------------------	---	---

議題 2 「第 4 次・健康たかつき 2 1」の取組状況について

な考え方に基づいて行っているのでしょうか。

例えば、スクールカウンセラーによる心理的支援の中で、家庭環境や福祉的な課題が把握された場合にはスクールソーシャルワーカーにつなぐことが考えられます。一方で、スクールソーシャルワーカーが家庭環境等への支援を行う中で、児童生徒に心理的なケアが必要だと判断し、スクールカウンセラーにつなぐ場合もあると考えます。このように、一人の子どもが抱える課題を心理面、家庭環境、福祉面などに切り分けるのではなく、必要に応じて両者が連携して支援することが重要だと考えます。

そこで、両者の役割分担と、課題を把握してから必要な専門職につなぐまでの具体的な連携の流れについてお聞かせください。